

新スタッフの紹介 ★副島 礼子さん(2018年5月より)

★ NPO との関係

1997年に専門学校ヒューマンサービスコースに入学し在学中は石井須美子先生にご指導いただいています。卒業後は実習先でお世話になりました特養に就職し、結婚・出産後は老健で働いていました。昨年社会福祉士の資格をとりましたが、現場経験がないため今後どのように活用していくか模索中です。



★ マイブーム

パン作り、押し花、4月から娘の影響で始めた囲碁です。神の一手を目指して勉強中です。

会員交流広場 サロン de Y Y どかいがい 夏バテ予防の「ラタトゥウをつくろう」



レシピ 夏野菜ならなんでもOK

(材料) なす パプリカ スズキニ かぼちゃ 玉ねぎ しめじ、にんじん、ニンニク トマト
①にんにくをみじんぎりにする。材料を一口大より大きめにカットする。②にんにくを鍋にいれ、オリーブ油大さじ1を入れ火をつけ弱火で炒め、香りが出たら玉ねぎとにんじんをいれる。③2の鍋を中火にし、かぼちゃナス、スズキニ、しめじ、トマト、オリーブ油大1入れて炒める。④トマトの汁気が出てきたらパプリカを入れ塩、こしょう、バジル、ローリエをいれ10～15分煮込む。お好みで味噌小さじ1を入れるとコクがでる。

ご寄付のお礼 皆様のご支援により支えられています。

2017年8月～2018年6月にご寄付いただいた皆様(敬称略・順不同)
田口美穂・山本悦子・岡澤和枝・近藤真里子・中村道子・加藤さく子・渡辺美智子・大庭みづほ・尾崎裕美子・新田和子・笹尾正乃・日向野明子・生野のぞみ・戸田朱美
外池いずみ・徳森敬子 感謝をもってご報告申し上げます。

特定非営利活動法人東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンター入会のご案内

会員数 93 (正会員 79 団体会員 5 賛助会員 9) 2018年6月末日現在
～会員になって、東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンターを支えてください。～
会員特典：NPO 主催の講習会費の割引、講師派遣研修費の割引等があります。入会申し込みは事務局まで。

会費・寄付金等振込先

年会費：正会員 3,000 円/年 賛助会員 一口 10,000 円/年 団体会員 20,000 円/年
◆株式会社 ゆうちょう銀行 記号 10170 番号 80995501
◆三菱UFJ銀行 神田支店 口座番号 普通預金0138637
口座名義
特定非営利活動法人 東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンター

発行所 特定非営利活動法人 東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンター

発行人：石井須美子 編集人：長尾恵理子 蛭原まゆみ 副島礼子 大庭 幸 写真(沖縄 宮古の海) 石井須美子

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台一丁目8番11号 東京 YWCA 会館 216号室

TEL・FAX 03-6273-7134

E-Mail: info@ywca-hssc.jp ホームページ: <http://ywca-hssc.jp/> 東京 YWCA hssc で検索

2018年8月13日～15日 夏季休暇をいただきます。



特定非営利活動法人 東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンター

会報

見守り

支え

伝え合う

私たちは、福祉・介護の仕事のゆたかさを広げる活動を推進します



16号
2018年

新事業 東京都保育士等キャリアアップ研修スタート

2018年度会員総会報告・前理事長挨拶・新理事長挨拶 P 2

2017年度事業報告 P 3

特集 キャリアアップ研修～講師紹介① P 4, 5

講師 田島誠一氏 榊原久子氏 佐藤智英氏 神田郁子氏

2018年度事業計画 P 6

福祉啓発事業 『福祉のしゃべり場』10月より開催

会員交流広場 サロン de Y Y どかいがい

2018年度 会員総会報告

2018年度の総会が6月16日、正会員19名、賛助会員1名、表決委任者31名により開催されました。2017年度事業報告と決算を承認していただき、2018年度の事業計画と予算を審議していただきました。詳細は、2017年度事業報告と2018年度事業計画をご参照ください。

任期満了に伴う、理事・監事の選任の審議では、これまでの理事に加えて、田島誠一氏の就任が諮られました。田島氏が加わった理事・監事の選任が満場一致で承認可決されました。

2017年度当初、講師派遣研修の契約の減少による収入の減少が懸念されましたが、7月以降新規研修が増えることで、順調に収益が改善されました。一方単発研修の減少や講座「相談援助職スキルアップ講座」が中止となり、今後の検討につながる経験となりました。

2018年度新たに取り組む事業「東京都保育士等キャリアアップ研修」・「福祉のしゃべり場」に関する意見をたくさんいただくことができ、今後の取り組みが明確になりました。

会員総会后、理事長を選出するために、臨時理事会が開催されました。理事の互選により、遠藤理事長に代わり、田島誠一氏が新理事長となりました。

大きな感謝をこめて

遠藤 久江

「石の上にも3年」という諺があります。NPOが立ち上がった時はこの諺が総会の度に頭をよぎりました。3年持ちこたえられるか、いや、3年は続けなければという思いが当時集っていた者の気持ちでした。

東京YWCA専門学校は2010年3月に閉校になりましたが、最後の校長であった私は卒業生を思う先生方の気持ちを無視することができませんでした。

何らかの方法で卒業生と繋がる組織を作りたいと思いこのセンターを構想しました。

幸いにも石井須美子先生が雇用保険をもらいながら、センターをNPOとすべく準備を担って下さいました。しかし、無から有を作り出すことは至難の業でした。

2010年4月1日からは東京YWCAに在ることができませんでしたので、公益財団法人愛恵福祉支援財団の会議室の一面をお借りして、「ある時払いの催促なし」の状態で机を置かせていただきました。海のものとも山のものともつかないこの団体を信頼し、応援して下さった社会福祉法人白十字会をはじめ専門学校時代からのつながりのあった社会福祉の事業所に支えられながらも7年の歩みを続けてきました。

微力ではありましたが初期の役割を果たし得ましたこと、また、これまでお支えいただいた多くの方々へ、この場をお借りして心より感謝申し上げます。



理事長就任あいさつ

田島 誠一

6月16日に開催された総会・理事会で理事長に選出されました田島です。

東京YWCA専門学校の存続について検討する委員会メンバーになったのが10年ほど前、その後派遣講師としてセンターに関わって来ました。遠藤前理事長の（有無を言わさぬ）要請に応え、youngでもwomenでもないのに重職を担うことになりました。

45年前、聖隷福祉事業団で保育士からスタートし、病院事務長や常務理事を務め、日本老人福祉財団理事長を務めながら母校日本社会事業大学専門職大学院で教員をしてきました。現在は、日本福祉大学教授のかたわらコンサルタント会社を営んでいます。

やまゆり園事件の際に、優生思想や障害者に対する差別意識丸出しのツイートなどをたくさん目にし、障害者に限らず、LGBT、外国人など社会的マイノリティを包摂する社会を創るために最後の力を発揮したいと決意しました。高い志を持って福祉のしごとに加わってきた人たちが、人間観・福祉観を磨くことで成長することに関わり続けていきます。センターが前身の専門学校福祉科以来作り上げてきた「人権を尊重し、人とのかかわりの中で自己を育てる」ことをしっかり引き継ぎ、理念の具現化と存在価値を高めることに力を尽くします。



第一回「福祉のしゃべり場」のお誘い

福祉・介護に関わっている者同志、日ごろの葛藤や困っていること、日々の取り組み等の話をする中で、仕事のヒントを得たり、解決の糸口をみつけたり、ストレス発散し、明日へのエネルギーを養う時間を過ごしたい！そんな話しをしている中から今回の企画を立てました。

発起人は、東京YWCA専門学校ケアワークコース20回卒業生。

学生時代に受けた実習指導のグループスーパービジョンをイメージして進めます。10月6日を皮切りに2～3ヶ月に一度の開催を予定しています。「しゃべり場」に関心のある方、どなたでもお待ちしております。

日時：2018年10月6日（土）
13:30～15:00

場所：東京YWCA会館 216号室

★今後については、参加者の意見を聞き決めていきます。

費用：NPO会員 無料 会員以外 100円



会員親睦会のご報告

＝6月16日会員総会后に、会員親睦会が開催されました＝

東京YWCA専門学校の先生方、卒業生、法人会員の施設からも参加があり、総勢25名の親睦会となりました。軽食を囲みながら、

和やかな懇談の中、互いの情報交換・

総会の内容を確認することができました。

ご意見・広報の方法の提案などなど、話が弾みました。この日、2名の新会員も加わりました。

総会や親睦会以外の普段の日にもお近くにお越しの際には事務局にお立ち寄り下さい。

*総会后臨時理事会が開催され、理事の互選で田島誠一氏が新理事長に就任されました。



会員お勧め 書籍の紹介

認知症になった家族との暮らし方 「よくある困りごと」への対応がわかる

社団法人 認知症の人と家族の会 監修

家族が認知症になったらどうすればよいのでしょうか。身近な存在だからこそ戸惑い悩むことも多いはず。元介護家族からのメッセージも記されています。とてもわかりやすい内容です。パニックになる前に読んでみると、先手必勝！と感じられた方もおられるそうです。

鼻めがねという暴力～どうしたら認知症の人の虐待を止められるか～

全国200万人の介護職に捧げる書

株式会社 harunosora 林田 俊弘 著

著者自身が経験された、自分の中にもある虐待につながる芽、追い込まれる苦しさや、虐待の芽がどんなところにあるのかという分析や、対策の方法も書かれています。

簡単なことではありませんが、読んでみてとても参考になりました。仲間と取り組むために、介護職にささげる書であることを実感します



事業方針

法人の掲げる理念・使命の実現に向けて2018年度は、高齢者、障がい者福祉に加えて、こども福祉分野を含めた事業を、東京、神奈川、千葉、埼玉を中心とした地域で行う。福祉・介護事業所等の人材育成のための講師派遣事業に加え、「東京都保育士等キャリアアップ研修」の事業者として認可を受け保育士のキャリアアップ研修事業を実施する。

講師派遣研修の課題に取り組み、講師派遣研修の独自性を生かした研修の実施と成果の検証を進め、質の高い人材育成に取り組む。また、東京都保育士等キャリアアップ研修の実施を通して、保育士のスキルアップに貢献し、使命の実現を目指すとともに、安定した事業展開を進めていく。発足後8年目を迎えるNPOにとっては、これからも継続した活動を進めるため経営の安定を図り、運営の組織基盤の充実に尽力する。

I. 事業に関する事項

1. 講師派遣事業

- ・単発の研修事業の伸びは苦戦が予想されるが、主力事業である年間を通して行われる講師派遣研修は、変わらず需要が期待できる。
- ・昨年、継続研修8年目・6年目・4年目・2年目となった法人が今年度も継続契約となり、研修事業に対する信頼と評価の表れであると思われるが、研修事業の検証に取り組むことで、更なる信頼につなげる。
- ・今年もこれまで以上に、講師の方々との綿密なやり取りと連携、法人・事業所研修担当者との協力関係の構築などに努め、研修の成果を職場に還元できるよう努めていく。
- ・研修成果を高める取り組みとして、①事業所担当者との信頼関係を築き、研修のねらいに沿った研修となり、成果を実感できるよう努める。②研修実施に向けた環境整備として、受講者のモチベーション向上、組織として受講者を支える仕組みが整うよう働きかける。③複数の講師がそれぞれ担当する研修内容が、どのように職員の育成に関与し成果を上げているか検証できるよう、研修の成果を「報告書」にまとめ報告、共有する。④研修で気づいた職員の気になる情報については、担当講師の意見を確認し、事業所研修担当者に報告し、必要時職員のフォローができるよう連携する等の取り組みを進める。

2. 講座 講習会

「東京都保育士等キャリアアップ研修」(以下キャリアアップ研修) 年間12回の研修を実施予定。

- ・2018年4月27日東京都知事へ研修実施機関指定申請 ・5月23日研修実施機関指定認可
- ・7月キャリアアップ研修支援事業費補助金交付を申請の予定 9月補助金交付予定、7月20日研修開始。受講しやすい環境を整え、受講者への対応、講師との連携と調整に尽力する。

3. 福祉啓発事業

- ・「福祉・介護のしゃべり場」を会員が中心となり開催し、継続した活動みとなるよう話し合い取り組んでいく。

4. 会員活動

- 1) 親睦会の開催：会員総会の後、親睦会を開催予定。
- 2) 同窓会(CW コース)担当の荒木氏より、2018年の同窓会時講演会を行いたいとの意向に沿い協力していく。

5. 広報

- 1) 会報の発行 年2回 (7月・12月)各800部 キャリアアップ研修受講者にも配布する。
- 2) ホームページ(以下HP)の活用
 - ・キャリアアップ研修の受付をHPからおこなうため、当法人HPの閲覧が増え、研修事業のPRを進めることで、講師派遣研修にも関心が向くよう、HPの内容を充実させていく。

II. 運営に関する事項

- 1. 会員総会の開催：年1回 2. 理事会の運営：年3回 3. 会員について：会員増加に努める
- 4. 事務局について：新たな事業「東京都保育士等キャリアアップ研修」を実施することから人員体制を見直す。

理事長 田島 誠一 事務局長 専任 石井 須美子
 事務局 専任 大庭 幸 非常勤 葛生 禎子(経理担当) 非常勤 副島 礼子(総務担当)
 東京都保育士等キャリアアップ研修専属アルバイト 3名
 事務局会議 原則毎週月曜日 その他、必要に応じて理事長面会・相談

I. 事業に関する事項

法人理念「対人援助の仕事にかかわる人たちの成長を支援し、福祉、介護の仕事のゆたかさを広め、利用者へのより質の高い支援の実践が広がることを目指す。」に基づき、以下の事業に取り組んだ。

1. 講師派遣研修

2017年度は、2~3年間継続していた講師派遣研修の見直しの時期となる事業所が複数あり、契約の終了、規模を縮小し継続するなどの変化があった。継続していた事業所の契約の終了を受け、予算を前年度比18%減でのスタートとなった。大きな変化が見られたのが、単発研修であり、前年15件あった研修が、2017年度は4件であった。単発研修が減少している原因としては、東社協をはじめとする研修が多数あり、単発研修としては他の研修機関との競合に勝つことの難しさがある。

この状況を改善するために、新規研修を増やそうと広報に力を入れるとともに、これまでの講師派遣事業の成果を検証し広報につなげる取り組みを進めた。その結果新規事業所の契約3件、継続研修が7件となり、収入が安定した。研修に新たな内容として、労務管理・メンタルヘルスなどが加わったことで、新規講師開拓につながった。コーディネーターとして、事業所毎に担当者を決め実施した。研修の成果が着実なものとなるよう講師との連絡調整、施設との連携に取り組んだ。

2. 講座 講習

2016年度に引き続き、好評であった相談援助職を対象とした2回の連続講座「2018年相談援助職スキルアップ講座」を企画するも、申し込み、問い合わせがほとんどなく、12月下旬やむなく中止とした。

3. 会員活動

総会后、親睦会実施 16名の会員が参加 初めての企画であったが、懐かしい方々の参加もあり、和やかな時間を過ごすことができた。参加しやすく、情報交換の場となった。

4. 広報

会報：14号 7月31日 200部 発行 特集「ただいま元気に活動中～会員紹介～」
 15号 12月19日 300部 発行 特集「法人・事業所と共に人材育成を目指す取り組みから～社会福祉法人白十字会8年間の研修を振り返る～」

II. 運営に関する事項

1. 会員総会の開催

開催日時 平成29年(2017年)7月1日(土)午後2時
 開催場所 東京都千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館 B11室
 出席者数 17名 内訳 正会員 15名 賛助会員1名 陪席1名 表決委任者 31名
 議案 一号議案 2016年度事業報告・決算報告 ・二号議案 2017年度事業計画案・予算案
 三号議案 定款変更 ・四号議案 監事の選任
 4つの議案については、賛成多数及び満場一致で承認可決される。

2. 監事の交代

開設当初から監事として東京YWCA職員の立場で協力していただいた高島佳子さんから監事辞意を受けて、同職員近藤真里子さんに監事を依頼。2017年度会員総会で承認される。

3. 理事会の開催

- 1) 2017年5月22日 YWCA会館216号室 19:00~21:00 出席 理事5名 監事2名 欠席 理事1名
- 2) 9月5日 YWCA会館216号室 19:00~21:00 出席 理事4名 監事1名 欠席理事2名 監事1名
- 3) 2018年2月6日 YWCA会館216号室 19:00~21:00 出席理事5名 監事1名 欠席理事、監事各1名

4. 会員について

2017年4月現在 正会員 個人 72名 ・ 団体 6団体 賛助会員 19口

5. 事務局について

理事長 遠藤 久江 事務長 専任 石井須美子 職員 非常勤 総務 大庭 幸 経理 葛生 禎子
 事務局会議 原則毎週月曜日 10:30~11:30 年間47回開催 理事長面会・相談適宜実施

特集 新事業 東京都保育士等キャリアアップ研修

東京都の指定を受け、研修実施機関として7月20日から研修がスタートしました。



マネジメント研修の受講風景

1. 保育士等キャリアアップ研修の目的

厚生労働省通知に基づき、保育現場におけるリーダー的職員の育成に必要な専門性の向上を図るための研修です。

2. 研修内容や費用について

東京 YWCA ヒューマン・ビズネス・センターでは次の4分野の研修を実施します。

【研修分野・受講必要時間】(研修日程は別表を参照)

- ①マネジメント ②障害児保育 ③保護者支援・子育て支援 ④食育・アレルギー対応
研修はそれぞれ15時間の受講が必須であり、受講後に修了書を発行します。

「処遇改善加算Ⅱ」を受けている保育園の職員は、受講料が免除され、研修実施機関は、研修開催に要する運営費の助成を受けることになります。

キャリアアップ研修を分かりやすく解説すると

保育士は今や日本の社会にとってなくてはならない人々です。その条件として、保育士としての資質向上をめざして計画されたのがこの「キャリアアップ研修」です。

この研修制度によって、日常の業務の先にある、より広い視野を持った保育や教育について学ぶだけでなく、受講者に対する処遇の向上を財政面でも支援する仕組みが用意されています。「自分のステップアップのために利用しよう」という気持ちで積極的に受講すれば、沢山の刺激を受け、保育士としての将来像も描けるのではないのでしょうか。

保育現場の状況と保育士の思い

昔に比べれば、保育士が働く環境は改善され、保育士一人が受け持つ子どもの人数は見直され、働きやすくなっています。しかし社会全体からすると給与の水準は低いうえ、保育士としての将来像も描きにくいという根幹の部分は、変わっていないようです。

保育士は毎日子どもと接するなかで、日々の子どもの成長を通してたくさんの喜びを体感することで、十分にやりがいを感じる仕事です。しかし残念ながら、その段階で満足感を得やすく、子どもの成長や親と協働しながら保育士自身で自らの力量を高めていくことに関しては強い関心を持っているとは言えないと思います。

保育の毎日の仕事は、子どもの成長や変化に自分がどう関わったかをしっかり考えたり、分析するゆとりもなく、子どもはどんどん育ち、巣立っていきます。

つまり、自分の仕事を客観的に評価したり、振り返ったりすることがあまりないまま、日々新しい課題に直面していくので、結果的に「これでいい」と自分のなかで完結してしまう傾向にあると思われます。

一方で、職場での人間関係や保護者との対応などには、悩むことも多く、疲れてしまう保育士が少なくありません。また、いわゆるベテランといわれても処遇面はあまり変わらないまま、女性保育士の多くは、自らの結婚や出産などにより保育が中断されたり、これまでの働き方のままなら続けていくことは難しいと考え、退職してそのまま職場へは戻らない、という方々も多いことも事実です。

東京 YWCA ヒューマン・ビズネス・センターが目指す研修

このような時だからこそ、保育士としての自分を見つめ直し、将来の道筋を見極めるためにキャリアアップ研修の活用をお勧めします。

当法人が取り組む上で大事にしていくことは、受講者一人ひとりが、受講した専門科目をより深めていくことは勿論ですが、その科目の基礎に息づいている人間観・福祉観・保育観に気づき、より優れた保育士として、成長していただきたいと願っています。

東京都保育士等キャリアアップ研修講師からのメッセージ

6月19日 4つの研修プログラムが共通理解をもって進められるように講師会が開かれました。会報今号と次号で担当講師からのメッセージをご紹介します。



6/19 キャリアアップ研修講師会

	Q1 キャリアアップ研修への思い	Q2 受講生へのエール
「マネジメント」 田島誠一先生	<p>良い保育を通じて、子どもの成長と、子育て世代への支援を中心として、インクルーシブな地域社会を創っていくことが、保育園に求められています。</p> <p>この研修で、ミドルリーダーとして求められる役割と知識を理解し、園の円滑な運営と保育の質を高めるために役立てください。</p> <p>マネジメントやリーダーシップ・チームビルディングは、そのためにとても役に立つものです。</p> <p>生涯にわたる職業人生(キャリア)の節目になるような学びをしていきましょう。</p>	<p>昭和52年男性が「保育士」試験を受験できるように政令が改正されました。私は、その時の第1号合格者です。20代の7年間皆さんと同じように保育士として働いていました。その後、事務局に異動しマネジメントやリーダーシップを学ぶ機会に出会いました。保育園にいたときに、このことを学んでいればもっと良い仕事ができただけに！と感じたことを覚えています。</p> <p>マネジメントはお金儲けを目指すことではありません。保育園や法人の存在意義を確認し、社会的に意義のある目的を実現し、その中で働く人々を活かすことがマネジメントの目的です。聞きなれない言葉が出てくるかも知れませんが、苦手意識を捨てて、前向きに学んでもらいたいと思います。</p>
「保護者支援・子育て支援」 榎原久子先生	<p>女性の社会進出が奨励され、夫婦共働きの家庭が年々増加しています。一方で、晩婚・晩産化、ダブルケア(育児と介護の両立)の増加に伴い、益々「子育てを支えてくれる人が身近に存在しない」家族も増加しています。このような現状に対して、安心して子育てできる社会の実現。「子育て世代を身近な地域で親身に支える仕組みの整備」は喫緊の課題です。最新の子育ての現状と課題を知り、保育園における子育て支援の可能性について学び合っていきましょう。</p>	<p>若者が「地域」「こども」のキーワードで「脳内」で検索をかけるとき、真っ先に思い浮かぶのが「保育園」であるとの声をよく耳にします。</p> <p>「あそこ(保育園)に行けば子どものプロがいる。あそこに行けば大丈夫」子育ての経験のない夫婦が、はじめての子育てのわからないことがわからないとの不安を安心に変える地域の子育て基地として、保育園は大きなミッションを持っていると私は感じています。「子ども子育ての地域の安全基地」を担う専門家としての実行力をつける15時間にしていきたいと思います。</p>
「食育・アレルギー」 佐藤智英先生 神田郁子先生	<p>食育・アレルギー対応を担当する佐藤智英です。よろしくお願ひします。〈食べる力〉を育む食育、食物アレルギーについて正しく対応できる知識を再確認していただき、9月からのお仕事に生かしていただければ幸いです。</p> <p>.....</p> <p>1人ひとりの子ども達の姿を思い浮かべながら研修に参加して、気が付いた事、学んだ事を明日からのお仕事に生かして頂ければ、と思います。</p>	<p>夏休みの貴重な3日間、楽しく学びましょう！今までの経験をもう一度講義で振り返り、演習で表現していただく予定です。最終日には、皆さんに食育計画と食育の発表をしていただきます。保育現場からの視点が楽しみです。</p> <p>.....</p> <p>公立保育園で36年栄養士の仕事をして来ました。保育園が大好きで現在は嘱託で続けています。各園で食育に取り組み『楽しく食べる子ども』を目指していると思います。今回グループ演習を通して一緒に学んで行きましょう。</p>